

特別展

上村松園と美人画の四季

京都に生まれ育った上村松園(1875-1949)は、早くより非凡な才能を開花させ、明治、大正、昭和の長きにわたり、自らが理想とする女性美を追い求め、数々の名作を世に送り出しました。女性の心と眼でとらえられた、その気品あふれる女性像は、今なお多くの人々を魅了しています。

本展では、二階堂コレクションを中心とした松園の初期から晩年までの作品約40点を、松園のまなざしに沿って紹介しながら、その高雅な画世界に迫ります。あわせて、松園と同時代に活躍した鍋木清方、伊東深水の美人画家たちをとりあげ、季節感豊かな美人画の数々を紹介いたします。

【会場構成】

■ 上村松園

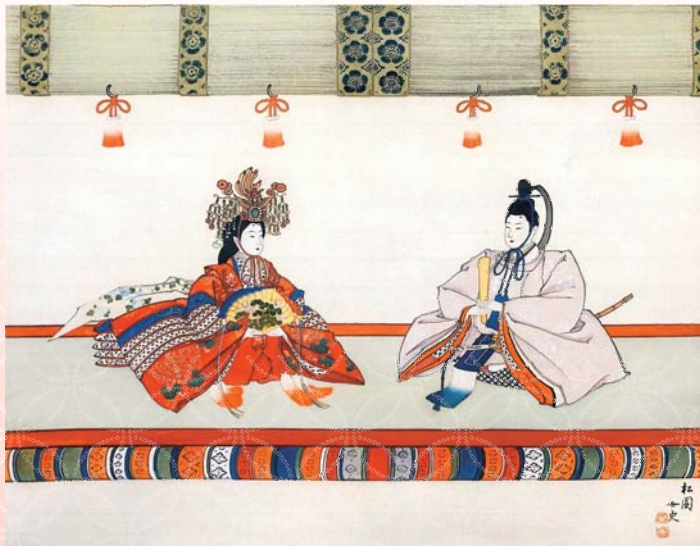
- 第1章：日常のひとこま
- 第2章：ハレの場
- 第3章：古典をひもとく
- 第4章：行楽の景

■ 美人画の四季

※会期中一部展示替を行います。



上村松園《姉妹》(部分)
明治33年(1900)頃



上村松園《内裏ひな図》明治25年(1892)頃 個人蔵



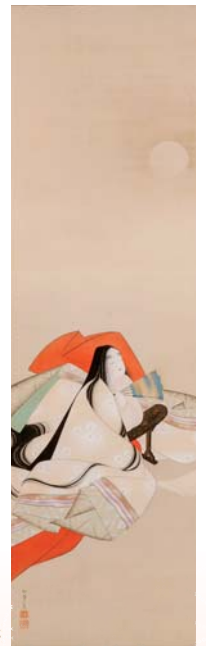
上村松園《晴日》昭和16年(1941) 京都市美術館蔵
【展示期間】10/25~11/27



上村松園《踊里の図》
大正7年(1918)頃



上村松園《夕くみの図》
昭和10年~20年代



上村松園《紫式部之図》
大正10年(1921)頃

